

広島県北広島町雲月山におけるゴマシジミの生息状況

上野 吉雄¹⁾・上手 新一¹⁾・本宮 芳太郎²⁾・本宮 宏美²⁾・中村 康弘³⁾

¹⁾ 認定 NPO 法人西中国山地自然史研究会・²⁾ 特例認定 NPO 法人三段峡—太田川流域研究会・
³⁾ 認定 NPO 法人日本チョウ類保全協会

Notes on the endangered butterfly *Phengaris teleius daisensis* in Mt. Ungetsu, Hiroshima Prefecture.

Yoshio UENO, Shin-ichi KAMITE, Yoshitaro HONGU, Hiromi HONGU, Yasuhiro NAKAMURA

はじめに

ゴマシジミ *Phengaris teleius* は北海道、本州、九州にかけて分布するが、本州以南では分布域が不連続となり、これまでの生息地でも現在は記録のない県が多い(日本チョウ類保全協会 2012)。環境省により絶滅危惧 IB 類(中村 2015)に、広島県により絶滅危惧 I 類に(岩見 2012)、島根県により絶滅危惧 I 類に(淀江・坂田 2014)、鳥取県により絶滅危惧 II 類に(永幡 2012)、岡山県により絶滅危惧 II 類に(中村 2009) 選定されている。

県内では、吉備高原や世羅台地、中国山地一帯から記録があるが(中村 2015)、すでに絶滅している産地も少なくないと思われる。近年では、庄原市比和町(千田 2018)、北広島町雲月山(上手ほか 2017)、安芸太田町深入山などで確認されている(上手ほか 2018)。

広島県北広島町の雲月山(911.8m)は、古くから牛馬の放牧などが行われ、採草地としての火入れなどが行われていた。この影響で、現在も半自然草原が保たれている。ゴマシジミは広島県内においては、1990 年代より個体数の減少が目立つようになり、安定して発生している産地がなくなった結果、個体群の形成が困難となっている可能性があると考えられている(間野・藤井 2009)。このように県内あるいは全国的にも生息が危機的な状況にあるため、雲月山における生息環境及び個体数の実態を把握することは、広島県の個体群を保全する上で急務である。

雲月山では、草原が維持され比較的ワレモコウ *Sanguisorba officinalis* の生育環境が整っており、ほぼ毎年一定の個体数が発生している(上手ほか 2017)。

筆者らは、上手ほか(2017)による 2015 年の調査から 5 年後の、雲月山におけるゴマシジミの現状把握を目的として現地調査を実施したので報告する。

調査地および調査対象種の概要

雲月山のゴマシジミは、中国・九州亜種 *P. teleius daisensis* とされ、大型で、翅表は強く発達した斑紋とともに明るい青色部が占め、外縁黒帯は幅広く青色部との境界は鮮明で、裏面の地色は白味が強く、亜外縁黒点列は三角形をしている特徴がある。しかし、同一産地でも青色部が強く拡大するものもあり変異幅が広い。国外ではヨーロッパからユーラシア大陸北部を経て朝鮮・サハリン・南千島に分布している(日本チョウ類保全協会 2012)。成虫の発生時期は、7 月下旬から 8 月下旬までで、一般に低地帯における羽化は高地帯の場合よりも遅れる。雲月山の発生時期は 8 月上旬から 8 月下旬である。

調査方法

調査方法は、一定の道沿いに出現する個体数をカウントするルートセンサス法により調査した。調査ルートは草原植生を貫く2ルートを設け、距離はそれぞれ300m程度で、観察幅は左右それぞれ5mとした。概ね、晴天で、調査時間帯の気温が20度以上の日を選んだ。ルート1は雲月山登山道に沿って、上の駐車場からスタートして稜線沿いを登り、岩倉山山頂から再度上の駐車場まで引き返す周回コースとした。ルート2は、下の駐車場からチップ舗装の登山道を登り、岩倉山のピークから雨量観測のある休憩小屋まで下るコースとした。

結果および考察

調査結果は表1のとおりで、8月9日から21日までの8回のルートセンサスを実施し、延べ31個体を確認した。この結果から以下のことが推察される。

発生時期については、8月9日の確認個体は新鮮で発生初期と思われる。今回の最大目撃数は8月13日の延べ8頭で、8月中旬頃が盛期と思われる。終期について8月21日の調査において、2個体を確認した。その後、8月26日に調査したが、ゴマシジミは確認できなかった。

今回の調査で雲月山におけるゴマシジミの個体数は30～40頭程度と推定され、上手らが2015年に行った調査では、延べ25個体が確認されており、ほぼ同程度であった。ワレモコウの花穂の付き具合や個体数などを考慮すれば、年による増減はあるもののこれ以上の個体数の増加はあまり望めないと考えられる。

以上のことから、ゴマシジミを保全していくためには、草原環境の維持につながっている山焼きや草刈の継続の必要性を強調していくことが重要である。また、ゴマシジミの幼虫は3～4齢までワレモコウの花穂を食べ、それ以降はアリ（クシケアリ属等）の巣中でアリの幼虫を食べて蛹化するため、クシケアリ等の巣の調査も今後、必要である。

表1 雲月山における2019年のゴマシジミの目撃個体数

日付	天候	時刻	確認頭数	行動
2019年8月9日	晴れ	10:15	3	2頭で干渉行動
		10:00	1	飛翔
8月10日	晴れ	8:30	1	飛翔
		9:00	2	2頭で干渉行動
8月11日	晴れ	10:00	2	
8月13日	晴れ	8:40	1	
		9:55	2♀	ワレモコウ花穂にとまる
		10:45	1♀	ワレモコウ花穂に産卵
		10:50	1♀	ワレモコウ花穂に産卵
		11:00	1	ワレモコウ花穂に産卵
		11:15	1	ハギの花で吸蜜
		11:25	1	ワレモコウ花穂にとまる
		11:37	1	ワレモコウ花穂にとまる
8月16日	曇り	15:00	2	2頭で干渉行動
		15:05	1	ハギの花で吸蜜
		15:10	1♀	ワレモコウ花穂に産卵
		15:50	1	飛翔
		16:00	1	飛翔
8月18日	曇り	10:30	3	飛翔
		10:55	1♀	ワレモコウ花穂に産卵
8月19日	曇り	11:30	1	ワレモコウ花穂にとまる
8月21日	曇り	16:00	2	飛翔

北広島町の保護条例により、雲月山のヒメヒカゲ・ゴマジミ・ヒメシジミが採集禁止となり、ある程度の個体数維持は期待できるものの、2019年8月11日にゴマジミが違法に採集されたとの情報を得ている。今後は採集者によるゴマジミの密猟を防ぐ方策を立てる必要がある。また、火入れや草刈りなどを通して、ゴマジミの生活史と一致するワレモコウの良好な状態の維持、それらを含めた草原環境と個体数の経年変動を継続してモニタリングすることが重要である。

引用文献

- 岩見 潤治 (2012) ゴマジミ中国・九州亜種. (広島県 編) 広島県の絶滅のおそれのある野生生物 (第3版) —レッドデータブックひろしま 2011—, 153. 広島県, 広島
- 上手 新一・松田 賢・上野 吉雄 (2017) 広島県北広島町雲月山におけるヒメヒカゲとゴマジミの生息状況. 高原の自然史, 17: 13-18
- 上手 新一・松田 賢・上野 吉雄・岩見 潤治・本宮 宏美・本宮 芳太郎・中村 康弘 (2018) 広島県安芸太田町深入山における希少チョウ類5種の生息状況. 高原の自然史, 18: 79-88
- 間野 隆裕・藤井 恒 (2009) 日本産チョウ類の衰亡と保護 第6集. 日本鱗翅学会, 東京
- 永幡 嘉之 (2012) ゴマジミ. (鳥取県 編) レッドデータブックとっとり改訂版—鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物—, 119. 鳥取県生活環境部公園自然課, 鳥取
- 中村 具見 (2009) ゴマジミ. (岡山県 編) 岡山県版レッドデータブック 2009 —絶滅のおそれのある野生生物—, 212. 岡山県環境文化部自然環境課, 岡山
- 中村 康弘 (2015) ゴマジミ. (環境省 編) レッドデータブック 2014 —日本の絶滅のおそれのある野生生物— 5 昆虫類, 153. ぎょうせい, 東京
- 日本チョウ類保全協会 (2012) フィールドガイド 日本のチョウ. 誠文堂新光社, 東京
- 千田 嘉博 (2018) 広島県庄原市比和町で確認されたゴマジミと産地における個体数推定. 比婆科学, 263: 37-40
- 淀江 賢一郎・坂田 国嗣 (2014) ゴマジミ. (島根県 編) 改訂・しまねレッドデータブック 2014 動物編—島根県の絶滅のおそれのある野生動物—, 119. しまね自然と環境財団, 大田



A: 雲月山 2019年8月7日
 B: ゴマシジミの生息環境 2019年8月7日
 C: メスを追飛するオス 2019年8月9日
 D: 産卵するゴマシジミ 2019年8月14日
 E: 産卵するゴマシジミ 2019年8月16日
 F: ワレモコウで休息するオス 2019年8月16日